

熊本大学 脳神経内科

キャリア形成・専門医養成特別プログラム

2021



芦北 うたせ舟

ご挨拶

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科
教授 植田 光晴



熊本大学 脳神経内科 キャリア形成・専門医養成特別プログラムをご覧いただき心よりお礼申し上げます。

本格的な高齢化社会となり、脳神経内科に期待される役割は極めて大きくなっていますが、幸いにも熊本大学 脳神経内科は、長い歴史と実績を基盤として、高い専門性と幅広い診療を実践するメンバーが揃っています。また非常に充実した教育病院群を持つことは、我々が教育面で提供できる最も大きな財産です。

急性期から慢性期、コモンディジーズから希少難病まで、温かな先生方の下で安心して研鑽を積むことが出来ます。

脳神経内科の最も誇れるものは、知識と技術に基づいた正確な診断スキルです。脳神経内科医としてスペシャリストを目指す先生方に加えて、将来的に総合診療やプライマリケアを高いレベルで目指すジェネラリストの先生方も神経診察の習得は必須と考えます。当教室では、多様な研修が可能なプログラムを準備しています。

これまで脳神経内科領域の診療は、わからないことが多く、治療法も限られていました。しかし、医学の進歩と共に脳神経内科領域の診療は大きく変わろうとしています。将来的に神経疾患に対する治療選択は増えてきます。先進的な核酸医薬や、バイオ分子標的薬など、すでに多く実用化されています。脳血管障害に対する血管内治療の実践に伴い、脳卒中診療の常識は変わりました。これから、認知症に対する新規治療法が臨床応用され、神経難病に対する治療薬も開発されると思います。頭痛やてんかん診療も新しい治療薬の登場と共に大きく発展すると期待できます。

熊本大学 脳神経内科は、共に活動してくれる先生方が安心して研鑽を積み、充実した医師人生を過ごす一助となることを願っています。是非、仲間に加わって頂けることを心より願っております。

Contents

ご挨拶	p2
脳神経内科キャリア形成・専門医養成特別プログラムのご案内	p3
熊本大学脳神経内科の関連病院のご紹介	p5
熊本大学病院脳神経内科の診療概要	p6
熊本で活躍する脳神経内科医のご紹介	p7
病院見学・お問合せ窓口	p10

脳神経内科専門医養成特別プログラムのご紹介

三隅 洋平

本プログラムでは、総合内科的な視点・知識・技術、救急対応・重症管理能力など Generalist としての基礎に加え、神経系については高い専門性を持ち、神経内科専門医を取得することができます。このような「Speciality を持った Generalist」のニーズは非常に高く、治療・研究の進歩が目覚ましい神経領域を専門とすることは、将来性を高める選択です。頭痛、めまい、しびれなど日常診療でしばしば遭遇する症状、脳卒中、てんかんなど Common disease に適切に対処でき、多彩な神経・筋疾患に対する専門性を持つこと、“神経内科専門医”を取得することは、医師として大きな Upskilling につながります。専門医の取得には一定の期間、神経学会指定の施設での研修が必要であるため、従来、卒後に脳神経内科に“入局”して研鑽を積むコースが一般的でした。熊本大学脳神経内科では、皆様のこれまでのキャリアを生かし、短期間で効率的に専門医取得を目指すプログラムを開設しました。皆様の志向に合わせ、豊富な関連病院で安定して勤務しながら 4 年程度で専門医取得が可能です。従来の“入局”とは異なり、専門医取得後は皆様の志向、自由な将来設計に合わせてサポートいたします。

“確かなSpecialityをもつGeneralist” 神経内科 専門医

さまざまな経歴を生かして、いつからでも始められます。

Generalistとしての基礎

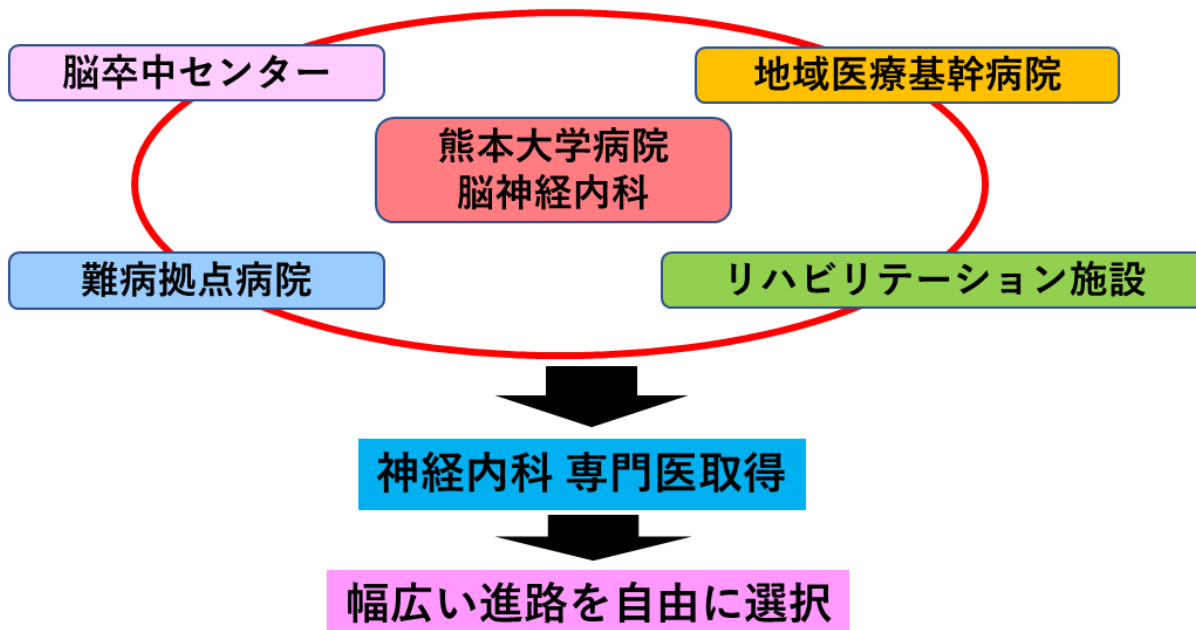
さまざまな経歴
内科医、総合診療医、外科医、研究職・・・

+

専門医取得のための研鑽

日本神経学会 教育施設、教育関連施設
での効率的な研修 (4-5年間)

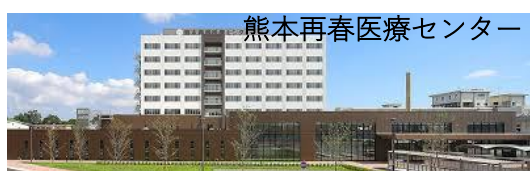
熊本県全域のネットワーク



熊本大学脳神経内科だからできること

1. 熊本県全域の魅力的な教育病院群

熊本大学脳神経内科と関連病院では、急性期から慢性期、コモンディーズから希少難病まで、非常にバランス良く脳神経内科疾患の診療を学ぶことができます。充実した脳卒中急性期病院、神経難病拠点病院、リハビリテーション専門施設、地域拠点病院など、国内でも有数の教育病院群で脳神経内科専門医取得をサポートします。幅広い脳神経内科診療を高いレベルで実践することが出来る真の実力を得ることが出来ると確信します。



2. 安定した勤務環境, 恵まれた生活環境

常勤スタッフとしての安定した勤務環境が保証されます。休日は、森と水の都くまもと熊本, 阿蘇, 天草など恵まれた環境でリフレッシュできます。

3. 将来性, 専門医取得後の進路の自由度の高さ

脳神経疾患の診療は将来的にますます重要になります。専門医取得後は、医局に縛られることなく各人の進路を応援いたします。志向する専門性の研鑽, 留学, 開業など、必要であれば医局がサポートします。



熊本大学脳神経内科の関連病院

脳卒中急性期病院

済生会熊本病院
熊本赤十字病院
熊本医療センター
熊本市民病院

難病拠点・協力病院

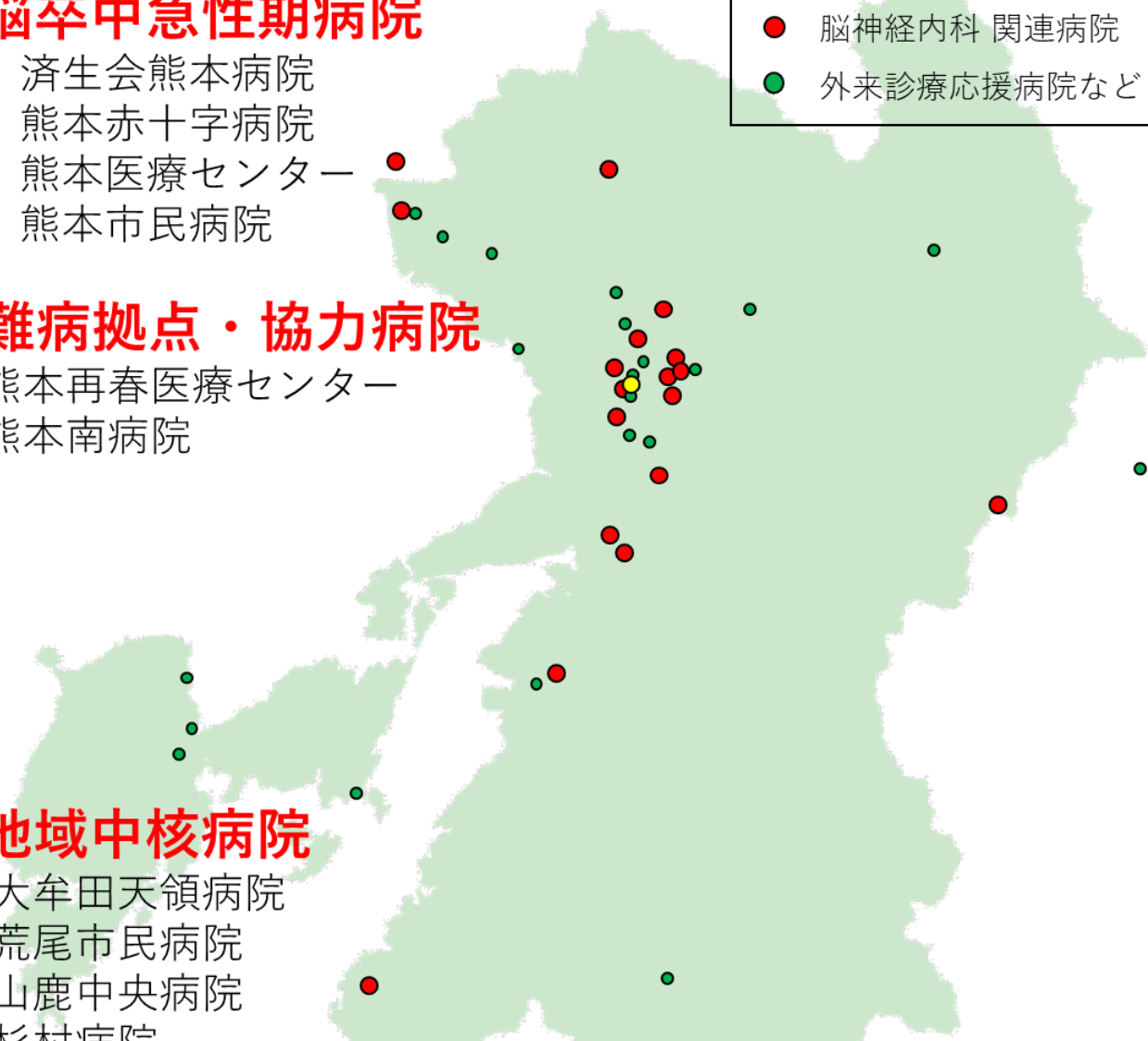
熊本再春医療センター
熊本南病院

地域中核病院

大牟田天領病院
荒尾市民病院
山鹿中央病院
杉村病院
西日本病院
くまもと南部広域病院
そよう病院
熊本労災病院
水俣市立総合医療センター
宇城総合病院

リハビリテーションセンター

熊本機能病院
熊本託麻台リハビリテーション病院

- 
- 熊本大学病院
 - 脳神経内科 関連病院
 - 外来診療応援病院など

外来診療応援病院

玉名中央病院
阿蘇医療センター
熊本総合病院
天草地域医療センター
など

熊本大学病院 脳神経内科

◆診療の特徴

熊本大学病院脳神経内科では、神経免疫疾患、神経変性疾患、筋疾患、末梢神経障害をはじめとする専門性の高い神経疾患の多くを熊本県全域の関連病院からご紹介いただいております。血栓回収療法が必要な脳梗塞は、K-EARTH Project（熊本血栓回収療法地域格差解消プロジェクト）により、県下の脳卒中センターと連携をしながら積極的に治療を行っております。また、アミロイドーシス診療センターには全国よりアミロイドーシスの診断、治療のご依頼が寄せられ、遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスに対する siRNA 治療や各種臨床治験にも積極的に取り組んでおります。

◆入院

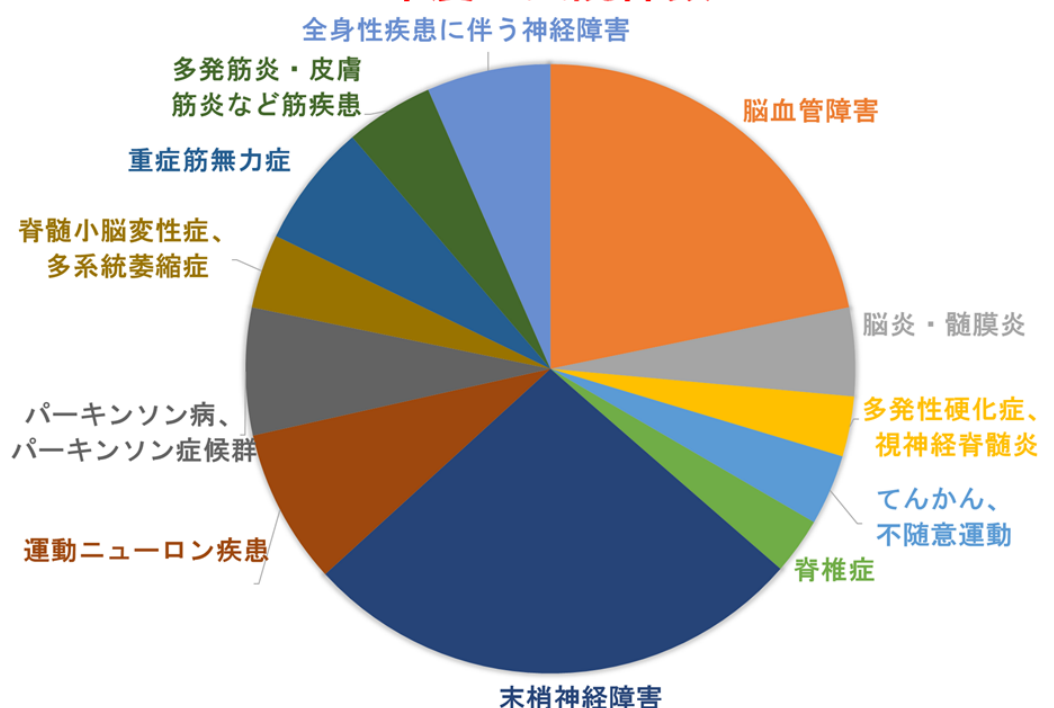
◆外来

初診 1,021 名
再来 10,455 名

◆検査

神経伝導検査: 447 例, 筋電図検査: 166 例, 筋生検・筋生検: 39 例, 頸部血管エコー: 316 例, 脳波: 260 例, 睡眠ポリグラフィー: 36 例, 脳血管造影（検査, 治療）: 125 例

2019年度の入院件数: 571



臨床から研究まで各自の志向を達成できる環境

様々な領域の専門家

神経科学研究、脳卒中、神経変性疾患、神経免疫疾患、筋疾患など

豊富なスタッフと協力体制

チーム診療制、過重労働の軽減、産・育休後の復職が容易

高い基礎・臨床研究力、潤沢な研究資金

Translational researchを含む研究能力・実績
研究・学術活動における経済的サポート

熊本で活躍する脳神経内科医のご紹介

今村 美智恵（平成 25 年長崎大卒，熊本大学病院）

これまでの経歴

長崎大学を卒業後，長野県の諏訪中央病院で初期研修と一年間内科後期研修医として勤務しました。学生時代から脳神経内科に進むことは決めていましたが，一般内科医としての基礎を身に付けたいと考え，急性期から終末期，外来や往診と幅広く経験を積める病院で研修しました。4 年目から当科へ入局し，途中育児休暇も取得させていただきながら，大学や，難病拠点病院でローテーションしました。

脳神経内科を志望して思うこと

疾患が幅広く，まだ同じ疾患であっても患者さんによって経過や症候が様々であり，興味がつきない科だと感じています。診断にたどり着くまでに難しさもありますが，その分やりがいと充実度を感じます。また，様々な検査の発展もありますが，病歴と神経所見が基本であることを日々実感しています。

将来の目標

まずは，多彩な神経疾患に対応できるよう，一つ一つの症例に向き合っていきたいと考えています。特に興味がある分野は神経免疫なので，深めていけたらと考えています。

プログラムを検討中の先生へ一言

「難しい」と敬遠されがちな科かと思いますが，少しずつ経験を積む中で確実に自分の技術として成長を実感できる科です。丁寧に指導してくださり，ロールモデルとなる先輩方がたくさんおられます。ぜひ一緒に働きましょう。

進藤 誠悟（平成 19 年熊本大卒，熊本赤十字病院）

これまでの経歴

2007 年 3 月 熊本大学医学部を卒業後，熊本大学病院で初期研修を行う。

2009 年 4 月 熊本大学神経内科に入局，済生会熊本病院神経内科で後期研修を行う。

2011 年 4 月 熊本大学神経内科にて医員として働く（内科認定医取得）。

2013 年 4 月 脳血管内治療専門医を取得するために岐阜大学脳神経外科，兵庫医科大学脳神経外科にて研鑽を積む（神経内科専門医，脳神経血管内治療学会専門医取得）。

2016 年 4 月 熊本赤十字病院脳神経内科に勤務（脳卒中専門医取得，社会人大学院にて学位取得）。

脳神経内科を志望して思うこと

脳卒中を含め，脳神経内科分野では，我々が医師になった時と比較して，よくなる人がどんどん増えていってるなあと思います。

将来の目標

熊本県は，脳血管内治療専門医が少ないので，脳血管内治療専門医を増やして，より多くの人を脳血管内治療で助けたいです。

プログラムを検討中の先生へ一言

脳卒中は，脳血管内治療により，劇的な症状の改善が見込める病気になりました。

興味がある方は，是非一緒に脳卒中をやきましょう！

岡田 匡充 (平成 25 年京都府立医科大卒, 大学院博士課程)

私は、済生会熊本病院で2年間研修医として勤務し、神経系の機能に興味を持ち、2015年4月に脳神経内科に入局しました。熊本大学病院で1年間、脳神経内科医としての基礎を学んだ後、熊本市民病院、熊本南病院、熊本再春医療センター、熊本医療センターで勤務をし、幅広く神経疾患の診療に従事した後、2018年4月より大学院に入学し、現在はアミロイドーシスの研究をしています。大学院に進学した理由は、臨床医として様々な経験をしていくうちに、研究で得られる視点が自らの成長につながると感じたことと、治療法が十分でないと言われていた疾患に新規の治療法が臨床応用されていく中で、そのような治療開発につながる研究はやり甲斐があるのではないかと考えたことでした。

脳神経内科の大学院での研究生生活は、非常に充実しています。指導教官含めた上級医の先生だけでなく、同じ大学院生や学生の皆さんと研究に励んでおります。自身で研究を進めることができる環境がありますし、指導教官である安東由喜雄先生や植田光晴先生をはじめ様々な先生にご指導をいただいてディスカッションを重ねる中で、誤った方向性も正していただけるという恵まれた環境であると思います。しかし、未知のものに対して切り拓いていかなければならないという研究の難しさや厳しさも日々実感しています。今後は、現在行っている研究を継続し、アミロイドーシスの病態解析や新規治療法の開発を進めていきたいと考えています。

私は医学生時代、脳神経内科は難しい学問で自分には到底向いていないと思っていました。しかし、以前は治らないとされていた疾患にも様々な治療法が研究されており、まさにこれから臨床、研究していくには非常に興味深い診療科であると実感しています。実際に触れてみないと分からないことも多いと思いますので、少しでも興味のある方は是非ご連絡いただき、脳神経内科の世界に飛び込んでみて下さい。よろしくお願い致します。

藤本 彰子 (平成 19 年福岡大卒, 熊本大学病院)

これまでの経歴

平成 19 年度卒業、平成 21 年入局。熊本大学病院、熊本再春医療センター、天草中央総合病院へ勤務後、夫の国内留学に伴い、平成 29 年 10 月～令和 2 年 8 月迄、国立精神・神経医療研究センター病院、脳神経内科および身体リハビリテーション科に勤務。

脳神経内科を志望して思うこと

神経難病の診療に携わるうちに、内科的治療にリハビリテーション医療を組み合わせることで、疾患の進行抑制できるのではないかと考えリハビリテーション医療に興味を持ちました。国立精神・神経医療研究センター病院で行った研究として、「デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する長下肢装具立位訓練の側弯予防効果の検討」を行い、早期からリハビリテーション医療を開始することで側弯のみならず呼吸機能低下の進行予防し、歩行可能期を延長できる可能性を示しました。この研究は第 3 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会で YIA (Young Investigator Award) 最優秀賞を受賞しました。神経難病リハビリテーションは今後も発展が注目される分野と言えます。

将来の目標

神経難病の患者さんへ早期からリハビリテーション医療を開始し、疾患の進行抑制を図ることです。

プログラムを検討中の先生へ一言

リハビリテーション医療は、神経内科の分野にとどまらず、あらゆる科で関わりを持ちます。これまで専門とされてきた疾患では、特に深い知識と興味を持ってリハビリテーション医療に取り組めるのではないのでしょうか。女性医師も多く活躍されており、ご家庭と両立しながら医療に貢献できる分野だと思いますので、是非ご検討下さい！

井上 泰輝（平成 16 年熊本大卒，熊本大学病院）

初期臨床研究期間を終えた後は2年ほど内科系の診療科をローテーションし、幅広く研鑽を積みました。その過程で目にした脳血管障害の治療のダイナミックさに惹かれ、脳神経内科へ入局しました。脳血管障害に加えて、多種多様な神経変性疾患を経験する中で、未だ有効な治療法の見つからない脳アミロイド血管症の研究をしたいと強く思うようになりました。そこで大学院の門を叩き、研究に没頭する日々を過ごしました。現在は診療と研究の二刀流で頑張っています。

神経科学の研究ではまず仮説を立て、その仮説が正しいかどうかを検証するために実験を行うのですが、仮説が正しかった時は跳び上がるくらいに嬉しくなります。しかし、正反対の結果だったときも、別の意味で興味が湧き上がります。神経科学の真理は私たちの頭で考えているものとは全く異なった形をしていることが多く、予想と正反対の時こそ、大きな発見をしていることもあるのです。真っ正面からその真理と向きあい、研究を積み重ねてゆく過程はとても楽しいものです。

医師として研究を行う中での目標は、創薬や病態の解明などたくさんありますが、自分の生きた証が残る仕事をするを常に意識しています。その実現に向けて、着実に歩みを進めてゆきたいと思っています。

プログラムを検討中の先生へ一言

本文を読まれている皆さんが、将来、世界を驚かせる知見の第一発見者になっているかもしれません。脳神経内科の研究は知的好奇心を刺激するワクワク、面白さで満ち溢れています。臨床現場で悔しい思いをしたこと、わからなかったことを研究で解明し、皆さんの手で新しい治療法を見つけにいきませんか？私たちが今、病院で行っている治療も全て先人たちの研究へのひたむきな努力、情熱によって見出された知見に立脚しているのです。脳神経内科で大きな夢を描き、一緒に頑張ってください。

松原崇一郎（平成 21 年大分大卒，熊本大学病院）

私は研修医の頃は救急や総合内科の気持ちが強く、福岡徳洲会病院の初期研修と後期研修として総合内科で計4年間研修しました。元々神経の臨床や研究に興味があり、地元が熊本ですので5年目に当科に入局させていただきました。6年目の研修先として熊本赤十字病院で研修しておりましたが、脳卒中を専門とする上司に後押しもあり、上司も研修した国立循環器病研究センター(NCVC)に研修が決まりました。他にも留学を希望する同僚もいる中でしたので、大変身の引き締まる思いがありました。

NCVCでは虚血・出血の両方の脳卒中を臨床から研究まで深く堪能させていただきました。国内外で著名な先生の指導の下、神経疾患の中でも徹底的に脳卒中を学問として突き詰める経験はこれまでに無いものでした。沢山の研究班があり、いくつか参加しておりました。その中でも脳卒中後てんかん研究をしていたため、てんかん研修として、孫留学先の埼玉にある朝霞中央総合病院（現・あさか医療センター）に3ヶ月間出航させていただきました。留学当時はNashville Hopeと呼ばれる脳主幹動脈閉塞に対する血管内治療のエビデンスが相次いで国際学会に報告された時期で、誰しもが血管内治療を孫留学先として希望する中で不安はありましたが、結果として現在の私の仕事の中心となっており大変貴重な経験ができたと感じております。先生方と一緒に仕事ができるのを楽しみにしております。

病院見学・お問合せ窓口

熊本大学 脳神経内科キャリア形成・専門医養成特別プログラムについてご興味のある方、ご質問、見学のご希望などお気軽にご連絡ください。

熊本大学 脳神経内科学講座 三隅洋平（医局長）

Tel: 096-373-5893

E-mail: misumiy1@kuh.kumamoto-u.ac.jp



熊本大学大学院生命科学研究部
脳・神経科学分野 脳神経内科学講座

先端生命医療科学部門



〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

TEL 096-373-5893（代表）

FAX 096-373-5895